

取締役会・経営層向け

銀行のための デジタル資産戦略。

顧客関係を守り、再利用できる能力を築き、根拠に基づいて投資する。

意思決定の枠組み

接続された金融サービスの事業優先度、運営権限、採算、導入の判断段階を整理します。

01 / 経営層への提言

再利用できる能力に投資する。

最初の判断は限定した顧客業務であり、機関全体の置換計画ではありません。

顧客関係を守る

お客様は、すでに信頼する金融機関で承認済みの決済・資産・投資サービスを検討できるべきです。銀行外に流れる業務、その理由、実際に利用されるサービスを特定します。新たな接点は、実在する関係を維持・改善してこそ価値を持ちます。

運営モデルを改善

依頼、ID証拠、審査、正本記録、サービス状態を結びます。エージェント支援は重複入力を減らし、担当者の文脈理解を助けますが、方針判断と承認権限は機関が保持します。効果を主張する前に、審査準備時間、手作業、例外処理を測定します。

成長の選択肢を作る

共通のID・統制・データ・接続機能を第二の承認サービスに再利用します。経済的な判断軸は、統制、耐障害性、退出能力を維持しつつ追加費用が下がるかです。パートナーへのアクセスは法的・運営上の関係が明確であって初めて機会になります。

最初の委任範囲

優先顧客層と業務を一つ選び、調査と金銭的価値のない実証を支援します。事業、業務、リスク、技術、財務の責任者を指定し、実サービスを約束する前に基準値、正本、機能一覧、明確な実施・中止判断を求めます。

取締役会が目標を持ち、パイロットが根拠を提供します。

02 / 戦略的背景

商品を区別し、 機会を見極める。

「デジタル資産」は便利な総称ですが、商品を十分に定義するものではありません。

商品	銀行が確認すべき事項
ネイティブ暗号資産	許可された顧客アクセス、保管、執行、市場リスク、報告。
法定通貨参照型ステーブルコイン	発行者・準備資産リスク、償還権、経路、流動性。
トークン化預金	銀行債務、記帳、移転規則、銀行間決済。
トークン化証券・実物資産	法的強制力ある権利、正本台帳、適格性、管理、償還。
中央銀行の決済資産	制度参加資格、アクセス、稼働時間、決済条件。

外部研究が示すもの

BCGの2026年分析は暗号資産、デジタルマネー、トークン化資産を区別し、戦略とガバナンス上の判断を求めています。BISは中央銀行準備、商業銀行マネー、金融資産と併せてトークン化を論じます。再利用型の能力形成を支持しますが、特定銀行の採算は証明しません。[1, 2]

根拠の位置付け

調査での関心は関心、計算上の節減はシナリオ、提供者の説明は検証すべき主張です。顧客自身のフロー、費用、需要が投資の基準になります。トークンだけでは権原、流動性、預金保護、越境営業権限は証明されません。

需要と実現性が 重なるところから。

顧客ニーズ、適格数量、相手方、導入工数、統制の準備度で用途を順位付けします。

機関・顧客層	最初に評価する提案	求める根拠
プライベートバンク・資産管理	統合情報と承認済み資産アクセス	需要、保管モデル、適合性、報告要件。
EMI・トランザクション銀行	具体的な決済・資金業務	両端、受益者情報、提供範囲、総合採算。
リテール・地域銀行	簡潔な顧客受入と日常サービス	完了率、審査時間、利用率、支援負荷。
保管・証券サービス	選定資産の管理・販売	法的台帳、ライフサイクル、保管権限、資金側決済。
銀行財務部	限定した流動性・担保業務	時間加重エクスポージャー、相殺、稼働時間、ストレス時挙動。

実践的な優先基準

責任あるスポンサー、観測可能な基準値、参加する相手方がある業務を優先します。利用の確約がない複雑な設計は案件群ではありません。再利用と運営規律を示す小規模な提案が、最善の初期投資になり得ます。

除外範囲を明示

対象外の商品、資産、国、顧客、提供者、取引を定めます。ポートフォリオ情報は執行に先行でき、支払指図は外部決済の有効化前に試験できます。発行や高度な組成は初期版に不可欠ではありません。

機関の統制を設計に表す。

導入責任と、顧客受入・取引承認・規制サービス運営の権限を分離します。

主体	合意する責任
金融機関	顧客関係、商品範囲、リスク許容、受入判断、正本帳簿、リリース承認。
OVRYDE	設計、導入調整、統合、合意した受入支援、継続サービス責任。
Hybrid技術サービス	契約した技術能力と、選んだ配置で受け入れるための根拠。
接続提供者	免許・契約上のサービス、対応操作、水準、照合義務。

目的ごとに一つの正本

既存コアを残す場合、残高、記帳、執行の正本も維持します。Hybrid Bankingは許可された情報を同期し、承認指図を転送します。指図には安定したID、既知の状態、照合経路が必要です。受付は決済完了ではありません。

統制経路を共通化

フォーム、職員画面、エージェント依頼で同じ権限・方針・承認モデルを使います。準備、確認、承認、署名を分け、会話だけでなく行為者、文脈、判断、実結果を保持します。

依存関係を管理可能に

事故、復旧、変更の責任を提供者間で割り当てます。証拠アクセス、再委託、支援時間、可搬性、退出を規定します。導入パートナーが調整しても、複数システムにまたがる障害の解決主体は契約で明確にします。

収益、余力、現金節減を分ける。

機関自身の適格数量と費用を用い、すべての仮定を見えるようにします。

例	計算	意味
決済オーケストレーション	適格フロー50億USD × 純変動貢献2bp = 100万USD。固定運営費150万USDを控除。	導入費前で年50万USDの損失。分岐フローは75億USD。
保管・資産アクセス	平均資産5億USD × 純変動貢献10bp = 50万USD。固定費80万USDを控除。	導入費前で年30万USDの損失。分岐資産は8億USD。
準備時間	月10,000件 × 8分短縮 ÷ 60。	月約1,333時間の総余力。追加審査、例外、支援を差し引く。

運営費用を全て含める

統合、並行運用、提供者・ネットワーク料金、遵守人員、安全性審査、法務、データ、支援、復旧、流動性、退出を予算化します。旧費用は実際に消えるまで残し、財務承認済みの利用拡大・損失仮定を使います。

二重計上しない

維持された資産は自動的に新規資産ではありません。余力が現金節減になるのは支出を除いた場合です。再配置は支出を減らさず価値を生む場合があります。調達改善、リスク時間短縮、規制資本効果は別の機構であり、各々の根拠が必要です。

判断基準

既存提供者の拡張、最善の従来業務と比較します。下振れケース、損益分岐数量、便益責任者、財務基準を求めます。高速化だけで事業の成立は証明できません。

管理されたサービス層を軸に構築する。

顧客体験は簡潔に、記録・権限・サービスの境界は明確にします。



スタックを組む

顧客電子銀行、職員画面、支援操作が体験層です。ID、ゲートウェイ、方針、承認が依頼を統制します。金融層は正本コアと、個別受入済みのウォレット・保管・決済・市場サービスを結びます。非公開記録、限定文脈、限定証明が支えます。

共存を設計

用途に合う既存帳簿・経路を再利用します。アダプターごとに項目対応、最終性の意味、再試行、取消・反対仕訳、照合を定めます。使いやすい画面への複製は第二の独立残高を作る理由にはなりません。

再利用を測る

同じID、方針、可観測性、統合要素で第二の業務を試します。設定で済む部分、新規コード、新たな契約が必要な部分を記録します。目標は統制を維持したまま追加導入の工数を下げることです。

確認を判断に 結び付ける。

適格性、地域方針、スクリーニング、監視を関連する操作の時点で説明可能にします。

顧客受入・地域制限

Hybrid-IDはログインと別途許可された検証情報を提供し、適格性は機関が決めます。地域制限には審査済み国別プログラム根拠と承認方針が必要です。制裁対象者の住所が国全体への制裁を意味しません。保護された国別制限は通常の許可初期値に優先します。

設定と鮮度

対応する6系列を初期選択します。権限ある担当者が変更を管理し、行為者、理由、版を保持します。必須証拠の欠落・失効は関連操作を止め、暗黙の通過にしてはいけません。出所の選択解除で保護された地域制限を黙って消してはなりません。

取引監視・調査

単一送金でなく関連期間の行動を集計します。反復少額送金、受取人変更、急速な移動、予想活動からの変化は審査を要し得ます。イベントとルール理由を説明し、担当、引上げ経路、解決記録を用意します。アラートはシグナルであり不正の断定ではありません。

広いリスク範囲

保管・署名権限、発行者・償還、流動性、市場・モデル、ブリッジ、スマートコントラクト変更、運営依存、外部委託を評価します。FSBは国際実施のばらつきを指摘しており、一般的な「準拠」表示ではなく法域と行為を個別評価する必要があります。[3]

08 / エージェント、データ、証跡

支援を拡張し、 権限の責任を明確にする。

有用なエージェントは許された仕事を準備し、次の判断を明示します。

効率的な操作

顧客・職員の依頼から許可情報を使い、審査可能な指図を作ります。確認前に金額、受取人、目的、操作を示します。従来フォームと同じ最新方針を適用し、必要な独立承認を得て、実行系の実状態を返します。

意図したデータ境界

モデルに渡す情報、推論場所、保持・再利用する文脈を決めます。アクセス、最小化、暗号化、保管、監査可視性、取消、支援アクセスを定義します。Hybrid-ID認証で他の参加者に銀行記録が自動開示されることはありません。

証明の正確な意味

選定した遵守方針のコミットメントは単一運営者・4者中3署名・無価値の専用Testnetに接続します。署名、定足数、包含、公開・ネットワーク結合、チェックポイント連続性を検証します。詳細は非公開です。最終確定した証明は完全性と包含を支え、法的正しさを証明しません。

機関ごとに残る作業

現行はガイド付きコマンドです。自由な外部エージェントアクセス、機関内モデル、広範な共有メモリ、全会話のアンカーは定義・実証する統合範囲です。目標構成を、すべての操作が検証済み・本番対応済みという主張に変えてはいけません。

支援で準備。明示的に許可。結果を検証。

導入モデルを選び、 変更する力を残す。

パートナーは、構成・依存・受入経路を機関が管理しやすくすべきです。

経路	選ぶ主な理由	検証する代償
既存提供者を拡張	受入済みサービスが優先業務に合う	範囲、画面制約、将来の再利用。
専門家を組み合わせる	特定機能に深い専門性が必要	企業間統合、事故責任。
統合導入パートナー	設計・実施の調整が必要	集中、成熟度、採算、退出。
一部を自社開発	差別化につながる能力	人材、維持、保証、実現時間。

処理単位で配置を定義

機関内、専用クラウド、ハイブリッドを、所在地、モデルアクセス、鍵、バックアップ、監視、管理、支援で評価します。「オンプレミス」だけでは完全な運営モデルになりません。外部依存と障害時対応を記録します。

根拠付き機能一覧

必要操作ごとに、パイロットで稼働、独立試験済み、個別統合作業、未対応を記録し、受入根拠を添えます。必要な保証報告、証明書、対象範囲そのものを取得します。ロゴや準備宣言は代替ではありません。

可搬性を示す

データ搬出、ID対応、必要時の鍵・保管移管、過去証跡へのアクセス、提供者契約終了、復旧を定義します。依存する前に退出を試験します。

観測できる根拠で リリースを判断する。

定義した成果で進めます。経過時間は受入基準ではありません。

段階	成果物	移行条件
定義	優先業務、範囲、基準値、責任者、予算 仮定	需要、実現可能性、測定できる成果。
価値なしで実証	設定業務、コア対応、方針・例外・復旧 試験	記録照合、禁止操作拒否、障害診断。
限定的実運用を受入	承認提供者、保証、支援、流動性・運営 限度	必要権限、署名済み受入、明示的有効化権 限。
再利用・拡張	第二用途、追加工数、更新リスク・費用	正の採算、強靱な統制、試験済み退出。

最低限の受入シナリオ

禁止先、古い必須証拠、無権限者、競合・重複指図、応答喪失、部分障害、提供者停止、不正証明、再起動復旧を試します。実価値のサービスには保管、最終性、償還、流動性ストレスを追加します。

リリース判断

事業は需要・成果、業務は支援・照合、リスク／遵守は統制、安全性／技術は耐障害性・接点、財務は採算基準を担います。明示承認、未解決事項、制限、切戻し権限を要求します。

次のセッション

優先顧客層・業務、コア・提供者一覧、法律・ホスティング制約、責任あるスポンサーを持ち寄ります。限定パイロット計画、責任表、機能一覧、受入評価表、次の判断に向けた商業範囲を得ます。

対話を支える根拠。 主張の明確な境界。

経営層資料・技術付録と併用し、調達前に機関固有の仮定を更新します。

主な一次資料

[1] Boston Consulting Group, The Future of Digital Assets、2026年5月18日。戦略と商品区分。予測は銀行固有の成果ではありません。

[2] Bank for International Settlements, Annual Economic Report 2025、第III章：The next-generation monetary and financial system。通貨構造とトークン化。

[3] Financial Stability Board, Thematic Review on the FSB Global Regulatory Framework for Crypto-asset Activities、2025年10月。法域間の実施状況。

製品・導入説明の根拠

Hybrid Banking資料は管理された実証、専用Testnet証跡、統合境界を説明します。OVRYDE公式サイトは商業・導入上の位置付けを示すもので、独立保証ではありません。公開ツアーと遵守デモは架空記録です。

根拠を区別する

独立発行の研究、説明された製品能力、機関固有の仮定を分けています。市場推計や大手銀行のシナリオを顧客の期待成果とはしていません。投資前に資料日付、運用範囲、関連根拠を検証します。

資料の使い方

一枚紹介は対話開始、経営層資料は提案理解、技術付録は構成・統制審査、戦略ペーパーは投資・運営判断に使います。財務例は例示です。認証、確約利回り、移転可能な免許、普遍的な本番準備は意味しません。

[1・BCG報告 ↗](#)[2・BIS分析 ↗](#)[3・FSB検討 ↗](#)[OVRYDE ↗](#)[Hybrid Banking ↗](#)[技術アーキテクチャ ↗](#)